

令和7年度における広島市認知症地域支援推進員の特色ある取組について

区	分類	特色ある取組
中区	研修会	災害時の支援について、専門職の支援体制が不明確で、地域とのつながりが乏しいという認知症の人の家族からの相談を契機に、「災害と認知症」をテーマに、令和6年度から多職種連携会議を開催している。令和7年度は、認知症の人の個別避難計画を用い、避難訓練を実施した事例を発表した。専門職の災害プロジェクトチームへの参加や、避難訓練を実施したケアマネジャーの協力を通して、発表に向けた検討を重ねた。地域住民や多職種を巻き込み、避難訓練を実施したことで、平時からの見守りにつながったことが伝わる事例発表となった。災害時以外でも認知症の人と家族を支援者だけで支えることは困難であり、地域との連携を改めて意識する機会となった。
東区	多職種連携	認知症をテーマに多職種で気軽に話し合える場として、令和6年度に東区認知症多職種ネットワーク会議の立ち上げを行い、令和7年度は継続支援に注力した。事前準備として、委員長や区地域支えあい課と事前に打合せを行い、方向性を見失わないように心がけた。会議開催時は、会議の趣旨がずれないように、会議の仕様書に沿った目的等や企画のコンセプトを繰り返し説明し、委員の理解が得られた。行方不明者事例等を基に活発な意見交換ができ、SOSネットワークの見直しや、令和8年度の認知症SOSネットワーク会議の再開につながった。
南区	認知症地域支援体制づくり	認知症について、まだ自分事として捉えにくいといった状況が見られるため、楽しみながら認知症について学び、地域住民同士の交流を深めることを目的として、認知症カフェのイベントを開催した。地域住民や企業の方が対象で、内容は医師による認知症に関する講義や音楽演奏などの交流を行った。参加者同士が自然に会話できるような雰囲気作りを行い、実施後は、イベントを通して認知症に対する理解が深まり、身近な問題として考えるきっかけになったという声を聞くことができた。
西区	認知症地域支援体制づくり	認知症サポーターステップアップ講座修了者の活動の場が少ない課題がある中、「認知症の本人や家族の話を聴きたい」との声を受け、令和6年度に傾聴ボランティアを立ち上げた。地域包括支援センターや区社会福祉協議会等と連携して支援し、中広圏域では修了者の希望に応じて、介護施設とのマッチングを行った。庚午圏域では傾聴についての内容を含んだ認知症サポーターステップアップ講座フォローアップ研修や、傾聴ボランティアの交流会等を通じて、新たなボランティアの参加につながった。他の圏域でも傾聴ボランティアの育成と活動の場づくりに取り組んでおり、認知症の人に寄り添う支援につながり、施設入居者にも良い影響を与えている。
安佐南区	認知症地域支援体制づくり	地域包括支援センターから、「地域に認知症の人がいると不安、施設に入れた方がよいという相談がある。認知症の人を見守る地域づくりをしたい。」と相談があった。そこで、認知症の人とよく接する民生委員を対象に、認知症の理解が深まるよう働きかけた。定例会での研修会の紹介や、資料の配布等で興味を持ってもらい、基礎知識から対応、気持ちの理解、制度等を段階的に学べるよう、数回に分けて講座を行い、徘徊模擬訓練等の体験型研修を行う機会も設けた。民生委員の改選ごとに行い、排除傾向の強い地域だったが、認知症の人を地域の人が見守り、支える空気ができており、区内の他の圏域でも同様の取組が広がっている。
安佐北区	研修会	区内で、認知症高齢者の行方不明事例等が増加しており、福祉関係者と警察の連携の必要性を感じていた。また、福祉関係者から、認知症の人や家族の困りごとへの理解を警察に求める声があった。その折、北部認知症疾患医療センターが警察との研修会を企画しており、推進員も共催することとなった。企画にあたり、警察に認知症の人の関わりに関する現状を確認し、新たに知ることが多くあった。そこで、福祉関係者の警察の業務内容への理解不足に気が付き、相互理解のためには、まず福祉関係者が警察の動きを知る必要があると考え、警察の仕事内容に注力した内容とした。参加者のアンケートでは満足度が高く、令和8年度以降も開催につなげたい。
安芸区	研修会	認知症になっても安心して過ごせる地域を全世代で作るため、安芸区地域保健対策協議会の認知症対策専門委員会主催で市民公開講座を開催した。子どもも認知症を学んでいることの周知を目的に、小学生向けの認知症サポーター養成講座を大人も共に受けることとし、委員会での協議や、区PTA連合会等との相談を行い、準備を進めた。子どもが楽しく参加できるように、医師の講演の間は別室を設け、高齢者体験等を通して楽しく学べるような工夫をした。講座では、講師の問いかけに高齢者も反応しており、参加者が一体感を持てた。アンケートで子どもが学ぶ姿に感動したという感想があった。認知症サポーターステップアップ講座の参加希望者もいたため、今後つないでいく予定である。
佐伯区	認知症地域支援体制づくり	認知症カフェの支援の中で、地域の認知症カフェへのマイナスイメージや、認知症に関する相談先の周知不足等の課題が挙がった。それに対して、「ニンテスト」という認知症のスクリーニングキットを用いて、認知症カフェにて認知症の理解や早期発見、相談窓口に関する普及啓発を認知症サポート医会と連携して実施した。認知症カフェへチラシを用いて企画への協力を仰ぎ、区内外の医療機関にはニンテスト実施後のフォローアップに協力してもらうため、依頼文を送付した。また令和7年度の市民公開講座にて認知症サポート医から取組について紹介した。多機関と連携した取組を通して、多くの人に普及啓発でき、医療・介護関係者との顔の見える関係づくりや認知症カフェスタッフとの連携体制の強化を図れた。